

【教科名】 書道科

(1) 目指すもの

書道の幅広い活動をとおして、書に関する見方・考え方はたらかせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

①書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけるようにする。（「知識及び技能」の習得）

②書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わいとらえたりすることができるようにする。（「思考力、判断力、表現力等」の育成）

③主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書をとおして心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。（「学びに向かう力、人間性等」の涵養）

①の「知識」は単に記憶するものではなく、書の表現や鑑賞の活動をとおして実感的に理解し、汎用的なものとしていくことが大切である。また、「技能」は表現活動において、意図に基づいて構想し表現を工夫するための基礎的な技能を身につけることをねらいとしている。②の「思考力、判断力、表現力等」は、書のよさや美しさを直感的に受け止め、表現や鑑賞の活動の契機とすることが大切である。表現活動においては、知識や技能を得たり生かしたりしながら、自らの意図に基づいて構想して表現を工夫し、鑑賞活動においては、知識を得たり生かしたりしながら、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わいとらえたりすることができるようにすることをねらいとしている。③の「学びに向かう力、人間性等」は、主体的に書の表現や鑑賞の学習に取り組む態度、生涯にわたり書を愛好する心情などを示しており、①および②の資質・能力を身につけていくなかで、一体的に育成していく。

(2) 授業の進め方

芸術科「書道Ⅰ」の内容は「表現」と「鑑賞」に大別され、両者は相互に密接な関連を図って展開し、広く書に関わる資質・能力を育成することとしている。また、書は言葉を書き記す芸術であるから、時間性や運動性を持ち、書を構成する要素のはたらかしによる独自の表現性を有している。書は視覚芸術であり、造形性や空間性を併せもっている。これらの書の特質や書的美をとらえて表現したり鑑賞したりするうえでの観点を十分に意識しながら学習を進めていく必要がある。

①「表現」は「漢字仮名交じりの書」「漢字の書」「仮名の書」の三つの分野から構成されている。「漢字仮名交じりの書」は、漢字仮名交じり文という日常的な表記を用いることから、芸術的な表現とともに実用的な表現も含まれており、中学校国語科書写との関連をふまえることが重要である。「漢字仮名交じりの書」では、言葉の選定、意図に基づく構想、名筆や現代の書の表現をふまえ、漢字と仮名の調和を図るとともに、表現の工夫を重ねながら作品を練り上げていく。また、「漢字の書」「仮名の書」においては、古典の名跡をもとに習う臨書活動を中心に展開していく。古典の書風を直感的にとらえつつ、用具・用材と表現効果の関わり、書体・書風と用筆・運筆との関わりを理解し、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけていくようにする。「表現」においては、意図に基づく作品の構想と表現の工夫、完成作品に至るまでの学習過程を振り返り、自己課題を確認しながら次の学習活動へと展開していくことが重要

となる。

②「鑑賞」は表現されたものの特性、表現効果、価値などを美に対する感受性や知的理解の面から味わうことである。「書道 I」においては、書の表現の方法や形式、多様性などについて理解したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わいとらえたりしていく。生徒一人ひとりの第一印象による直感的把握を大切に、各人が感じ取った作品や古典の印象を言葉で表現し、他者に伝えあったりする言語活動の充実を図るとともに、その書の美をもたらす根拠や価値を考えていく。また、生活や社会における書が果たしている役割についても考えていく。鑑賞にあたっては、教科書のほか、真跡・拓本・複製や印刷図版、また ICT を効果的に活用して作品を提示することで、主体的に鑑賞する姿勢を身につけるようにしていく。

(3) 使用教材について

教科書 書道 I (書 I 704) 教育出版

学期	使用教材	単元 (章)	学習内容
1 学 期	教科書 書道 I (書 I 7 0 4) 教育出版	書之美を求めて 書の世界へようこそ 一 漢字の書の学習 一 楷書の学習 二 行書の学習	用具・用材一文房四宝一 姿勢・執筆 古典の学び方 書を生活の中に生かしてみよう 書体の変遷 拓本と碑について 拓本を採ってみよう 1 さまざまな楷書 2 唐の四大家 ■九成宮醴泉銘／孔子廟堂碑 ■雁塔聖教序／顔氏家廟碑 1 さまざまな行書 ■行書の特徴 2 王羲之と顔真卿の行書 ■蘭亭序 唐の太宗と蘭亭序 ■祭姪稿 鑑賞ガイド 蘭亭序 鑑賞ガイド 祭姪稿 顔真卿の人と書
2 学 期	教科書 書道 I (書 I 7 0 4) 教育出版	三 篆書の学習 五 隸書の学習 漢字の書の制作 書の鑑賞形式 二 仮名の書の学習 1 仮名の世界へようこそ 2 蓬萊切の鑑賞 3 高野切第三種の鑑賞 4 三色紙の鑑賞	■泰山刻石 ■曹全碑 ■居延漢簡 作品の形式や用具・用材を工夫して表現してみよう 漢字の書の鑑賞 身のまわりの書 ■仮名の成立と発達 ■仮名の種類 ■姿勢・執筆 ■用具・用材 ■基本的な筆使い ■平仮名 ■変体仮名 ■連綿
3 学 期	教科書 書道 I (書 I 7 0 4) 教育出版	三 漢字仮名交じりの書の学習 1 言葉表現する 2 感動や思いを表現しよう	■作品の表現意図を考える ■名筆に学ぶ表現の工夫 ■用具・用材の工夫 ■全体構成の工夫 ■作品の完成 (鑑賞会を行う)